

令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立昭栄中学校

5月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。この調査は、全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童（生徒）の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校生徒の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和5年4月18日(火)

■ 調査の対象学年

中学校3年生

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語、算数・数学、英語)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定の割合で導入する。

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

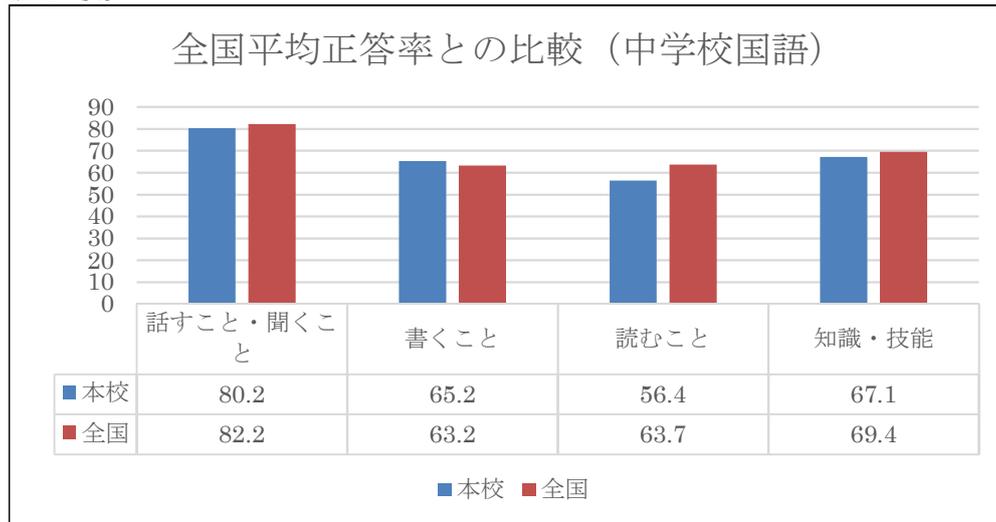
児童・生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査 (例) 国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学に限られています。令和5年度は、英語も実施しています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご欄ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語



(1) 結果

「書くこと」の領域では、全国を2ポイント上回っていました。しかし、その他の領域は全国を下回っていました。特に「読むこと」においては、7.3ポイント下回り、全国との開きが大きいです。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「ことばに関するレポート」における、調査の動機や結果のまとめ方を解答する問題で、全国や県を上回っており、成果が見られました。授業の中でもレポートを作成したり、総合的な学習の時間などで調べたことをまとめたりした経験を活かして答えることができたと考えられます。

大問2の読書に関する問題では、「観点を明確にして文章を比較し、表現の成果について考える」問題や「文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握する」問題において課題が見られました。長い文章の中から要旨をつかんだり、2つの随筆を比較して読んだりすることに課題があります。また、この随筆を読むことで、「文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる」という自分の読書生活と文章を関連付けて書く問題が全国よりも10ポイントほど下回っていたことから、的確に読み取り、自分の考えと関連付けて読むことに課題があります。

(3) 学力向上のための取り組み

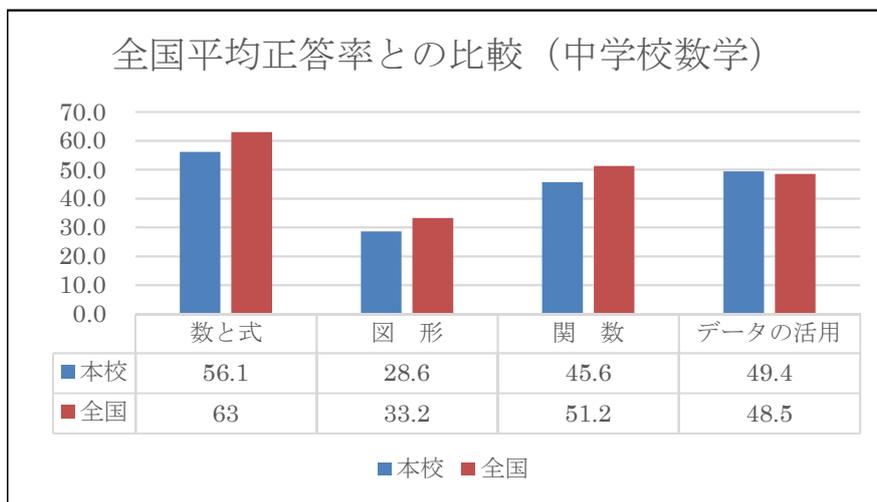
【学校では】

- 授業で学んだ知識や技能を、次の単元や他教科に関連付けて考えさせるために、単元の振り返り際には、「今後活かせること」について、まとめる時間を設定します。
- ペア活動や班活動を通して、自分の考えを伝える対話活動の機会を設定し、話し合いの進め方や意見の受け止め方を意識できるように指導していきます。
- 国語の学習を通して、学んだ内容と日常生活と関連付けて考えさせ、学級での話し合い活動や、他教科や総合的な学習の時間での調べ学習で活かすことができるようにします。

【ご家庭では】

- 自分で調べたことは、より記憶に残るので、知らない言葉や難しい漢字はすぐ辞書で調べる習慣をつけてほしいと思います。
- 読書や新聞、雑誌などたくさんの文字に触れる機会を増やしてほしいと思います。本校図書室や市立図書館などに定期的に行くこともお勧めです。
- 文字を書くこと、文字を読むこと、自分の考えを人に伝えることなどを意識するように心がけてほしいと思います。

2 数学



(1) 結果

「データの活用」が全国平均正答率より、0.9 ポイント上回っていました。それ以外の領域は、全国平均を下回っています。また、説明する問題や資料から読み取る問題など、記述式の問題の正答率が 37.7%と課題が残る結果となりました。

(2) 成果と課題

昨年度は、全領域で全国平均正答率を下回っていましたが、今年度は「データの活用」の領域で全国平均を上回りました。中でも、「四分位範囲を求める。」という問題では、正答率が 75.2%あり、全国平均を約 10 ポイント上回っていました。1つ1つの語句の意味を丁寧に指導してきた成果がでていていると思います。

一方で、「関数」の領域の問題の正答率は、ほとんどの問題で全国平均を 5 ポイント前後下回っていました。特に、式や表、グラフから必要な情報を読み取る問題は、約 10 ポイント下回っており、多くの情報から必要な情報を選択し、活用する問題に課題があります。また、箱ひげ図を比較して、複数の集団の傾向を説明する問題では、無答率が 26.2%と高く、自分の考えを記述することにも課題があります。

以上のことより、これからの改善策としては、技能面や知識面だけではなく、解き方を友だちに説明したり自分の考えを記述したりする活動を授業の中で定期的に入れていく必要があると考えます。また、複数の資料から、情報を取捨選択する問題に取り組む機会を設定したいと思います。

(3) 学力向上のための取り組み

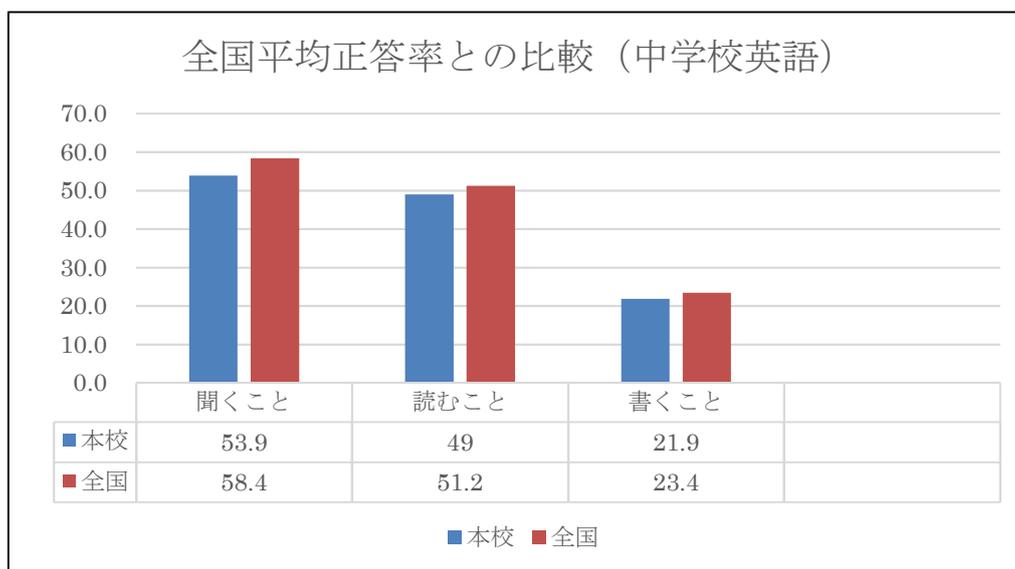
【学校では】

- 定期的に、復習問題を解かせ、既習の単元の知識・技能を振り返ることができるようにします。
- ペア活動や学び合いを通して、自分の考えを伝える対話活動や考えをまとめる機会を定期的を設定します。
- 関数領域の単元において、複数の資料から必要な情報を読み取る問題に取り組む機会を増やします。

【ご家庭では】

- 計算能力は毎日行うことで磨かれます。1日5問程度、毎日、問題を解く習慣を身につけてほしいと思います。
- その日に学習した問題の解き方を、家族に説明する機会を設定し、知識の定着とともに、説明力 UPにつなげてほしいと思います。
- 粘り強く取り組んで問題が解けたときは、一緒に喜んで、ほめてあげてください。保護者の方との喜びの共有が、その後のモチベーションにつながります。

3 英語



(1) 結果

3つの領域すべてで全国平均を下回りましたが、県の平均は2～4ポイント上回りました。問題別では、17問中5問【1(3)、7(1)、9(1)①、9(2)】で全国及び県平均を上回り、2問【3、7(2)】が全国及び県平均を下回りました。全国及び県平均を上回った5問は、聞くこと、読むこと、書くことの【知識・技能】の観点であり、下回った2問は、聞くことと読むことの【思考・判断・表現】の観点でした。

(2) 成果と課題

今回の調査では、外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解することや、これらの知識を実際のコミュニケーションにおいて活用できるか問う問題がよくできていました。特に7(1)「文と文との関係を正確に読み取ることができるかどうかをみる問題」では、全国平均を3.5ポイント上回っています。このような知識及び技能を問う問題では、教科書本文を、発問を通して読み解いてきた成果が表れています。

一方で、コミュニケーションを取る目的や場面、状況などに応じて様々な話題の、内容を理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることに課題があります。特に7(2)「日常的な話題について、短い文章の概要を捉えることができるかどうかをみる問題」では、全国平均を3.4ポイント下回りました。日頃から読んだ英文を要約したり、友だちにその概要を伝えたりするような活動を行う必要があります。

全体的には、無解答率も低く、聞いたり読んだりしたものに対して、自分の考えや意見を持ち、それを英語で伝えようとする姿勢が伺えます。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 日常的な話題や社会的な話題について、英語で簡単な情報、自分の考えや気持ちを表現したり、伝え合ったりする言語活動を豊富に行い、思考力、判断力、表現力を高めます。また、その中で英語のきまり（音声・語彙・表現・文法・言語の働きなど）を理解できるようにします。
- 身に付けた力を実際の文脈の中で活用し、それを発揮させるためにパフォーマンス課題（いくつかの単元を貫くゴールの活動）を設定します。また、その中で主体的に学習に取り組む態度を育成します。

【ご家庭では】

- 様々な話題について自分の意見とその根拠を述べられるようにするために、日頃から身の周りのことや社会の出来事などについてご家庭でも話題にしてください。
- 家庭学習では、ワークブックや課題を行うとともに教科書の音読や英語で日記を書くことも表現力を伸ばす良い学習方法です。また、日頃の力を試す機会として、英検のような外部試験を積極的に受けさせてほしいと思います。

4 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

《生活習慣・挑戦心・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	83.8%	78.6%
将来の夢や目標を持っていますか。	35.8%	39.4%
自分には、よいところがあると思いますか。	40.5%	37.2%
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	41.9%	32.2%
人が困っているときは、進んで助けていますか。	44.6%	38.4%
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	74.3%	71.7%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	82.4%	80.3%

朝食・起床・就寝については全国平均を上回っています。「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムを大切にしていくことはとても重要です。家庭と学校で協力して、この習慣を継続していきましょう。

挑戦心や規範意識の項目については、肯定的な回答をした生徒は全国平均よりも高い結果が出ています。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	11.5%	15.3%
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	8.8%	10.3%
「2時間以上、3時間より少ない」	19.6%	23.4%
「1時間以上、2時間より少ない」	21.6%	32.1%
「30分以上、1時間より少ない」	23.6%	18.0%
「30分より少ない」	16.2%	9.9%
「全くしない」	10.1%	6.0%

家庭学習については、1日当たりの学習時間の調査で、「3時間以上」「2時間以上、3時間より少ない」「1時間以上、2時間より少ない」いずれも全国平均を下回りました。また、1時間未満の生徒が4割近く、全く家庭学習をしていない生徒も1割いました。個々の習慣は異なると思いますが、家庭学習の意味を特別活動の授業の中で考えさせたり、テスト前には計画表を作成させたりして、家庭学習が習慣化するように指導していきます。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 学校からは、各教科、学年に応じた週末課題を出したり、定期テスト前は学習計画を立てて学習に取り組んだりするように指導しています。
- 定期テスト終了後は、自身の学習方法を振り返る時間を設定し、次回のテスト勉強に活かせるよう指導していきます。
- 本校の卒業生から、実際の高校生活を話してもらう「先輩に学ぶ」や、トップアスリートを招いた講演会を通して、夢や目標を持つことの大切さを学ぶ機会を設定します。

【ご家庭では】

- 規則正しい生活は、家庭学習の定着に極めて大切なことです。「全くしない」日をできるだけ作らないように、「〇時から□時まで勉強する」といった約束事を、ご家庭で話し合って決めてみましょう。
- 学校では、定期テスト前に生徒自身で学習計画を立てています。ご家庭の方でもテスト計画表をご覧になり、自分で決めた学習できるように励ましてください。